



感動！塩谷南那須地区ふれあい人権フォーラム

塩谷南那須地区ふれあい人権フォーラム（人権教育指導者一般研修）を6月9日（火）、那珂川町小川総合福祉センターで開催しました。237名の皆様に参加をいただき、イラストの展示、作文の発表、講演会を実施しました。

今年度の講演会では、昭和大学大学院保健医療学研究科准教授の副島賢和氏を招いて、「涙も笑いも力になる～子どもたちから教えられた大切なこと～」をテーマにこれまで、病弱児教育に携わった現場での経験を基にした話を伺うことができました。今回は、特に印象深い話を紹介させていただきます。



【副島賢和（そえじままさかず）氏】

「感情に善し悪しはありません。どんな感情も大切です。」

特に不快な感情を言語化し、感情の適切な扱い方を伝える関わりをしましょう！

学校では、「うれしい」「楽しい」等喜びの感情表現は、教師から歓迎されますが、「悲しい」「悔しい」等悲しみや怒りの感情表現は歓迎されません。悲しさは人にやさしくするエネルギーに、悔しさは何かに挑戦するエネルギーに変えることができます。

相手がきちんと受け取ってくれる伝え方を教師がモデルとなり、子どもたちに伝えることが大切で、不快な感情にフタをすると、子どもは喜びの感情も無くし、やがてフラッシュバックが起り、キレる子どもができるとのことでした。

「感情表出を正しく理解し、話を聞きましょう。」

「怒り」…他者や周囲に変わってほしいという願い。

「悲しみ」…苦境を分かち合ってほしい。助けてほしいという訴え。

「喜び」…誰かと分かち合うことで加速される。

「恐怖と不安」…問題があり、それを解消しなければならないという強い願い。

感情を表出した相手（児童生徒、保護者）に対しては、下線部を中心に聞くようにすると上手く感情を受けとめることができるとのことでした。

PTG（心的外傷後成長）という言葉について説明された後、「10年、20年後に『この経験をしたからこそ、ひょっとすると今の私があるのかもしれない。』と思える子どもを育てたい。」と話されていました。

病気だけではなく、いじめや虐待といった問題を抱えた子どもにもあてはまり、そんな思いに関わることは、十分子どもの人権に配慮した接し方といえると思いました。

人権に関する社会教育指導資料

『かがやき～すべての世代が支え合い高齢社会を幸せに生きるために～』

平成26年度版『かがやき』は、高齢者を含めたすべての世代が参画した、豊かな人生を享受できる高齢社会の実現に向けて、高齢者に関わる人権をテーマに資料を作成しました。

参加体験型学習（ワークショップ）による人権学習を実践する際に活用できるように、様々なアクティビティが掲載されています。

また、初めて人権学習を実施する指導者でも活用できるよう、言葉かけ例も掲載しました。

授業や懇談会等でぜひ御活用ください。





学校支援地域本部って？



突然ですが・・・「学校支援地域本部」って聞いたことありますか？

学校支援地域本部とは、地域ぐるみで子どもを育てることをねらいに、学校を支援するボランティア活動を組織的、効果的に進めようとするものです。子どもたちにとっては、多様な視点が入り入れられ、豊かな学びが得られます。また、ボランティアとして関わる地域の方々には、自分の経験や知識を生かすことで、自己実現の機会となります。さらに、学校への関わりをとおして、地域の方々をつながりも生まれ、地域の絆づくりにもつながります。

今回は、塩谷南那須地区で学校支援地域本部事業を実施している喜連川小学校支援地域本部と塩谷町地域教育力活性化本部から船生小学校の活動の一部を御紹介します。

喜連川小学校支援地域本部【6月5日（金）校内研修&コーディネーター打合せ会議】

喜連川小学校では、学校と地域応援隊（学校支援ボランティア）をむすぶ4名の「地域と学校を結ぶコーディネーター（以下、地域コーディネーター）」が活躍されています。

毎年、校内研修に「生涯学習」を位置づけ、学校支援地域本部事業の説明やコーディネーターの紹介、さらには、コーディネーターも交えて、地域応援隊が関わる授業の洗い出しや活動の相談、依頼等を学年ごとに実施しています。昨年度の反省から改善策を話し合ったり、先生方が応援隊に支援いただく活動内容を地域コーディネーターに相談したりとよりよい活動の実践に向けて、熱心な話し合いがなされていました。

校内研修の後には、会場を「ボランティアルーム」に移してコーディネーター打合せ会議が実施されました。参加者は、地域コーディネーター、



【校内研修の様子】

地域連携担当教員、さくら市教育委員会の担当者です。打合せ会議は、毎月1回実施されています。

この日の打合せでは、活動報告や情報交換の他、校内研修で出された活動について、早速、誰がどうコーディネートを進めていくかを話し合っていました。

校内研修も打合せ会議も、先生方と地域コーディネーターの方々が、楽しく温かい雰囲気の中で和気藹々とお話されている姿が印象的でした。

学校が地域とつながるためには、地域コーディネーターの存在は重要です。互いに顔と顔を合わせることで、つながりや信頼関係が生まれ、活動がより円滑に、充実したものになっていくことを改めて実感する時間となりました。



【廊下には、地域応援隊の方々の写真が掲示されていました】

塩谷町地域教育力活性化本部（船生小学校）【7月15日（水）生活科「生きものをさがしに行こう】

塩谷町では、町生涯学習課にコーディネーターを1名配置し、町内の小・中学校、そして日々輝学園の様々な活動をコーディネートしています。その中から、船生小学校の活動の様子を紹介します。

この日は、2年生の生活科の授業でした。ボランティア3名とコーディネーターが同行し、学校の近くの川に出発です。子どもたちの荷物置き場を確保するために、川辺の草を刈ったり、川にしかけを設置したりとボランティアの方が事前に準備をしていたそうです。

川に到着して早速、生きもの探しのスタートです。川に入った子どもたちは、生きものをつかまえる度に「これ何て名前なの？」と聞いたり、かごを持って一緒に捕まえたりと、ボランティアの方々とともに楽しそうに活動していま



【活動の様子】

した。そして、学校に戻って捕まえた生きものを大きなバケツに開けてみると・・・かじか、サワガニ、どじょう、オニヤンマのヤゴ等、たくさんの生きものに子どもたちも感動！ボランティアの方からは、「川を大切に守ってほしい」というお話しもありました。

最後に、協力してくれたボランティアの方にお話しを伺いました。「ボランティアを続けるのは、やっぱり、今日のような子どもたちの姿があるから。」また、川や釣りに詳しいご自身も「子どもに質問されたことをきっかけに、本を買ってさらに、勉強している」とも話してくれました。子ども、学校、そしてボランティアの方々にとってもまさに、「WIN、WIN、WIN」ですね。



【捕まえた生きものをのぞき込む子どもたち】

あじかき

夏の定番の飲み物の1つに「アイスコーヒー」があります。明治時代には、「冷やしコーヒー」と呼ばれ、庶民に親しまれていました。

当時は冷蔵庫どころか、氷すら手に入らなかった頃の暮らしにおいて、コーヒーは、ガラス瓶に詰め井戸水に浸してつめたく冷やしたのだそうです。夏の暑さを少しでも早く過ごそうとする智恵と風情が漂ってきます。



塩谷南那須教育事務所
ふれあい学習課

TEL：0287(43)0176

FAX：0287(43)0535

